

| 発達障害者の心理 |        | 単位数  | 履修方法    | 配当年次 |
|----------|--------|------|---------|------|
|          |        | 2    | R or SR | 3年以上 |
| 科目コード    | EG4733 | 担当教員 | 黄 淵熙    |      |



2010年度より「軽度発達障害者の心理」の科目名が「発達障害者の心理」に変更されました。

## ■科目の内容

この科目では、発達障害のある児童生徒の認知的特徴からくる心理的問題を理解し、それに対する対応について学習します。1単位めの課題においては、発達障害の定義および学習障害（LD）・注意欠陥／多動性障害（ADHD）・自閉症スペクトラム（ASD）の特徴に関して理解します。2単位めの課題においては、発達障害のある児童生徒が学校や社会で直面する心理上の問題に関して理解し、適切な対応法に関して学習していきます。

## ■到達目標

- 1) 発達障害の種類とその特徴について説明することができる。
- 2) 発達障害の行動特性の根底にある認知特性について説明できる。
- 3) 発達障害のある児童・生徒の心理的特徴について説明できる。
- 4) 発達障害のある児童・生徒に起こりうる2次障害について説明し、それを防ぐための方法について論じることができる。

## ■教科書 「EG4734 発達障害教育総論」と同じ

上野一彦・花熊暁編『軽度発達障害の教育——LD・ADHD・高機能PDD等への特別支援』日本文化科学社、2006年

## ■在宅学習15のポイント

| 回数 | テーマ                   | 学習内容・キーワード                                                                                                                | 学びのポイント                                                                                                  |
|----|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 歴史を知ろう<br>(part 1 1章) | 「特殊教育から特別支援教育へ」の転換がなぜ求められたのかを説明し、特別な教育支援が必要とされる児童生徒に関する全国調査の数値の意味を理解する。<br>キーワード：特別支援教育、発達障害、全国実態調査、特別支援教育コーディネーター、専門家チーム | 特別支援教育に関しては年々新しい知見が出て、それと関連する用語も変わっています。用語に関しては教科書のみではなく、参考図書の『発達障害の子どもの心がわかる本』を参考にし、最新の情報を理解するようにしましょう。 |

| 回数 | テーマ                                | 学習内容・キーワード                                                                                                 | 学びのポイント                                                                                                      |
|----|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2  | 発達障害のある子どもたちとは<br>(part 1 2章)      | 発達障害の概念を理解し、その種類について学ぶ。発達障害のある児童生徒について、どのような支援・配慮が必要かを理解する。<br>キーワード：学習障害、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群            | コラム1「疑似体験をしよう」を実際やってみて、日ごろ発達障害のある児童生徒が学校場面で遭遇する困難について考えてみましょう。                                               |
| 3  | 学校における理解と支援のしくみ<br>(part 1 3章)     | 特別支援教育のシステムの全体像を理解したうえで、現在小・中学校における発達障害のある児童・生徒の支援の現状について理解する<br>キーワード：校内委員会、特別支援教育コーディネーター、専門家チーム、個別の指導計画 | 特別支援教育の全体システムを念頭に置きながら、発達障害のある児童・生徒が適応しやすい学校環境というのはどういうものなのか自分なりに考えてみましょう。                                   |
| 4  | 子どもの特性を理解する<br>(part 1 4章)         | 発達障害のある子どもの認知的・心理的特徴を理解するために必要な心理・教育アセスメントを理解し、その活用方法について考察する。<br>キーワード：心理教育アセスメント、心理検査                    | 心理検査は個人の認知特性に合った指導のためのものであることを理解し、検査結果をもとに個別の指導計画を作る練習をしてみましょう。またコラム3を読んで代表的な心理検査法を理解しましょう。                  |
| 5  | 学習に困難のある子どもの指導<br>(part 2 5章)      | 学力のアンバランスを生じさせる影響因とそのメカニズムを理解する。学校における学習困難の指導・支援・配慮の方法について知る。<br>キーワード：学習困難、認知、学習支援                        | 学習困難の原因は様々であり、学習困難があるといって、学習障害と断言できるものではありません。知的障害、学習不振、学習障害などの弁別方法について考えてみましょう。                             |
| 6  | 「聞く・話す」に困難のある子どもの指導<br>(part 2 6章) | 「聞く・話す」ことに困難のある子どもの実態と原因について理解し、その学習支援と個別指導の方法を学ぶ<br>キーワード：LD、音韻認知、聴覚的短期記憶、通常の学級での配慮指導                     | 「聞く・話す」ことの困難の背景にある問題を理解し、問題別に異なった配慮が必要であることに気付くようにしましょう。また、「聞く・話す」ことに困難がある児童・生徒の心理的問題についても自分なりに考えてみましょう。     |
| 7  | 「読み・書き」に困難のある子どもの指導<br>(part 2 7章) | 「読み・書き」の困難をもたらす要因について理解したうえで、困難の原因と対応した指導方法及び内容について理解する。<br>キーワード：LD、ディスレクシア、日本語の読み書き困難                    | 「読み・書き」能力の根底にあると考えられる認知能力であるワーキングメモリー、音韻処理などについて正しく理解しましょう。                                                  |
| 8  | 「計算・推論」に困難のある子どもの指導<br>(part 2 8章) | 数概念と算数スキルの発達について、理解し、「計算・推論」の困難の要因について知る。<br>キーワード：LD、算数障害、算数文章題                                           | 「計算・推論する」ことの困難の背景にある問題を理解し、問題別に異なった配慮が必要であることに気付くようにしましょう。また、「計算・推論する」ことに困難がある児童・生徒の心理的問題についても自分なりに考えてみましょう。 |

| 回数 | テーマ                                 | 学習内容・キーワード                                                                                              | 学びのポイント                                                                                        |
|----|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | 思春期における2次障害へのケア<br>(参考図書2) 1章3)     | 思春期の発達課題について学び、発達障害の種別により起こりうる心理的困難について理解する。<br>キーワード：思春期、発達障害、ADHD、広汎性発達障害                             | 発達障害のある児童・生徒の1次障害は特定の年齢・環境により2次的問題に発展する可能性があります。その可能性がもっとも高い時期である思春期の問題を理解し、その対応について考察してみましょう。 |
| 10 | 行動のコントロールに困難のある子どもの指導<br>(part2 9章) | 応用行動分析の基本を理解し、行動分析を用いた子どもの行動の記述方法を知る。また、行動分析の結果に基づいた取り組みの指針について理解する。<br>キーワード：応用行動分析、消去、トークンエコノミー、自己効力感 | 実際の子どもの行動（例えば、席に座ってられないなど）を例として、応用行動分析にもとづいた対応について考えてみましょう。                                    |
| 11 | 社会性に困難がある子どもの指導<br>(part2 10章)      | 発達障害のある児童・生徒の社会性の困難について知る。また、ソーシャルスキル・トレーニングの指導原理と具体例を理解する。<br>キーワード：社会性のつまずき、ソーシャルスキル・トレーニング           | ソーシャルスキル・トレーニングの実際の例を読んで具体的な実施方法を学んでください。                                                      |
| 12 | 対人関係に困難のある子どもの指導<br>(part2 11章)     | 自閉症スペクトラムの児童・生徒の特性の背景にある心の理論障害と感情認知の障害について理解する。<br>キーワード：自閉症スペクトラム、心の理論、支援方法                            | 心の理論課題への困難が実際の対人場面でどのような問題として表れやすいのか想像しながら学習してみましょう。                                           |
| 13 | 学校ができる二次障害への支援<br>(参考図書2) 2章1)      | 2次障害の発生メカニズムを理解し、学校における2次障害への悪循環への対応策について学ぶ。<br>キーワード：2次障害、発達障害、学校生活                                    | 事例を読んで自分であればどう対応したかについて考えてみましょう。                                                               |
| 14 | 家庭でできる二次障害への支援<br>(参考図書2) 2章2)      | 発達障害のある児童・生徒を持つ家庭での子育ての悪循環を理解し、ペアレント・トレーニングプログラムの方法及び意義を理解する。<br>キーワード：子育て、悪循環、ペアレント・トレーニング             | 発達障害のある児童・生徒への支援の1つであるペアレント・トレーニングを理解し、褒めることを日常生活の中で練習してみてください。                                |
| 15 | 教育と医学・医療<br>(part2 12章)             | 医療における症状の捉え方を通して発達障害のある児童・生徒が示す問題を見分ける目を養う。また、その合併症についても理解する。<br>キーワード：医学、遺伝、合併症                        | 発達障害の主な合併症と併存症を理解し、合併症を防ぐためにできる心のケアを考えてみましょう。                                                  |

## ■レポート課題

|       |                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------|
| 1 単位め | 発達障害児の特徴を障害種別（LD・ADHD・自閉症スペクトラム）に要約し、その特性上起こりうる心理的問題について述べなさい。 |
|-------|----------------------------------------------------------------|

## 2 単位め

「A君は小学校3年生で、読み書きがとても苦手です。特に、漢字が苦手です。どうしても覚えられなく、国語の時間にみんなの前で本を読むと笑われたりしないかすごく気になります。また、不注意なところがあって、テストではケアレスミスが多く、プリントやノートなどをなくすこともしばしばあります。家でもよく叱られているし、先生からは「できるはずなのにしない」と思われています」。

この事例に対して、心理的なサポートを含め、学校や家庭でどのような対応が必要であるのかを述べなさい。

(注) 2単位めレポート用紙の課題記載欄は、下線部のみでよい。

## ■アドバイス

各課題について、テキストおよび参考文献などをよく読み、自分の言葉でまとめるようにしてください。参考図書3)の『軽度発達障害児を育てる——ママと心理臨床家の4000日』には発達障害児の事例が多数掲載されているので、それを読んで発達障害児の特徴を具体的に描いてください。

### 1単位め アドバイス

教科書の第2章(「軽度発達障害のある子どもたちとは」)および参考図書1)『発達障害の子どもの心がわかる本』の第1章を熟読し、発達障害の概念や発達障害のある児童生徒が抱える困難についてよく理解した上でレポートを作成してください。心理的問題に関してはp.24～25の「疑似体験」をし、その感想を踏まえてまとめてください。

### 2単位め アドバイス

事例の心理的困難について自分の考えを述べ、参考図書1)の『発達障害の子どもの心がわかる本』の第4章および教科書の指導編を参考にして適切な対応について考察してください。

## ■科目修了試験 評価基準

内容の理解が一番のポイントであるが、疑似体験や事例、実際の体験などに基づいて具体的に記述されているのかも評価対象となる。

## ■参考図書

- 1) 主婦の友編 『発達障害の子どもの心がわかる本』 主婦の友社, 2010年
- 2) 齋藤万比古著 『発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート』 学習研究社, 2009年
- 3) 五十嵐一枝著 『軽度発達障害児を育てる——ママと心理臨床家の4000日』 北大路書房, 2010年

(注)

発達障害の定義・診断基準などはさまざまなものがありますが、「DSM」(ディーエスエム)と呼ばれるアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計の手引き」が2013年5月に改訂され、DSM-5(ディーエスエム ファイヴ)として発表されました。

DSM-5の定義では、例えば「広汎性発達障害」が「自閉症スペクトラム(障害)」に呼び換えられるなどの変更がなされています。

教科書では「広汎性発達障害」「高機能PDD」「高機能自閉症」などの用語が使用されていますが、それが「自閉症スペクトラム」と分類される傾向にあります。そのような新しい傾向をふまえて、学習を進め、発達障害について理解を深めてください。